

訪問地別感想

忠南大学校

最初に忠南大学校を見たとき、本当に驚きました。日本の大学とは規模が異なり、キャンパス内は広くて、いろいろな学部が存在し、学校内なのにバスで移動するという、私が想像していた大学とはとても違うものでした。日語日文科の方々との交流は緊張もありましたが、自己紹介やお互いの大学の事などを話しているうちに緊張



も解け、話が弾むようになり、楽しい時間を過ごすことができました。また、一緒に昼食と夕食をとり、日本との食事作法の違いや日本人留学生の貴重な体験談も聞くことができ、多くの学ぶべきことを教えてもらうことができました(K・Mさん)。

忠南大学校の学生さんは、本当に日本語が上手でした。ビジネス日本語の授業の際、代表で挨拶しましたが、「アンニョンハセヨ」と言っただけで、拍手してくれた優しさが嬉しかったです(K・Rさん)。

景福宮

景福宮は王宮に呼ぶにふさわしい大きさと美しさを兼ね備えていました。屋根の裏の造りがとても色鮮やかで、素晴らしかったです。ガイドさんが韓服を着ていることにも感動しました。驚いたのは、女性と男性の家の周りの壁が異なることです。女性は壁の高さが高く、美しく装飾がされていましたが、男性は壁が低く、地味な色が多かったです。昔にも、女性の美意識の高さや壁を高くして見せないようにする配慮があったということが垣間見えたような気がしました(A・Sさん)。



慶福ビジネス高等学校

学校紹介のビデオを見せてもらい、高校生ながらホテルサービスを学んだり、コンピューターを習ったりと、その内容の高さに驚きました。また、授業を見学した時には、SMAPの映像に反応したり、キロロの歌を歌ったりする様子を見て、日本の歌手に興味があることが分かりました。また、日本語で質問をすることができ、高校生でもきちんと話すことができているのが驚きました。実際に授業を見学することで、どういう方法で勉強しているのかが分かり、良かったです(T・Rさん)。



高校なのにバーカウンターがある！カクテルを出してくれる！！初めての事で多少びっくりしたのと、日本の商業系の高校等よりも実用的かつ実践的だと感じました。また、高校生が何と言っても元気で、明るくて良いなと思いました。自由に発言する力が韓国の高校生のほうがあったと思います。日本での英語以外の外国語を高校生のうちからもっと学習できると良いと思います(K・Rさん)。

ロッテワールド民俗博物館

ロッテワールド民俗博物館では韓国の歴史の変遷を見ました。戦時下の街並みはほとんどの看板が日本語で書かれていました。日本史の教科書では目にしたことがありましたが、現地で実際に目を見ると、改めて日本が行ってきたことの残酷さを感じました。(S・Sさん)。

トロハウス(韓国語授業半日体験)

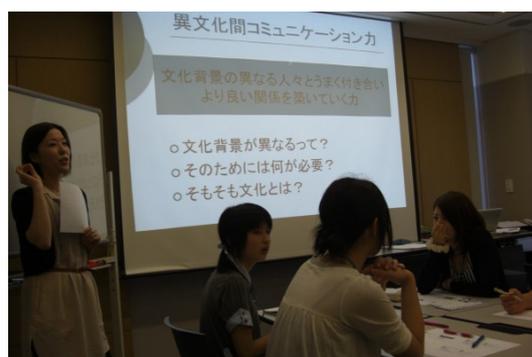
外国語を習うのはとても大変で難しいことなのだと改めて思った時間でした。自分の国にはない発音を学ぶ苦労を思い出し、いい経験になりました。ここで習った「初めまして(パンガプスムニダ)」を韓国の方に言ったら、とても喜んでいただけ、良かったです。先生との交流も嬉しかったです。先生の教え方がとても上手で、自分もこういう教え方ができるようになりたいと思いました(T・Mさん)。

韓国研修が4日目に突入し、私はどうしても知りたい言葉がありました。それは、どんな時にでも使える便利な表現、「ケンチャナヨ(大丈夫です)」。お店に入り、ケンチャナヨ、友達と話す時、ケンチャナヨ、先生への返事にケンチャナヨ。とても便利です。ト

ロハウスで習って、私は積極的に韓国語を使おうと思い、お店で近付いてきた美人の店員さんに言いました。「チャルモッケスムニダ！！(いただきます)」…店員さんの目はテンになっていました(A・Sさん)。

特別授業「異文化間コミュニケーション」(岩井朝乃先生)

「相手の文化を知ることは自分の文化を知ること」という岩井先生の言葉がとても印象に残っています。日常生活の中で文化について考えることはほとんどありません。今回の旅行で韓国の文化を知りました。そして同時に日本の文化に対する意識を高めることができました。岩井先生のお話の中で「異文化はまず受け止めることが大切」というお話がありました。文化の違いは必ずあるものです。私は先生のお話を聞く前には「日本のほうが良い。韓国のほうが良い」という考えを持っていました。しかし「文化はこういうものだ」と受け入れる態度が大切だと学びました(S・Sさん)。



岩井先生の授業を聞いて、他国の文化を受け入れることの大切さを感じました。異文化を持つ人との交流で違和感を感じてしまったりするのは、自分の国の文化を基準にしてその物差しでしか計らず、視野も広げないからだと思います。その国の普通と、自国文化の普通を比較してみることが大事だと思います。様々な視点から互いの文化を見られるようになればと思います(K・Mさん)。

国際交流基金ソウル日本文化センター 日本語講座

「対話技術」の授業では、まず発音の練習をしました。配られたプリントにある日本語の発音を見て、実際に発音してみて、日本語はこんなにも美しく発音するものだったのかと改めて考えさせられました。イントネーションやアクセント。同じグループの学生さんは、日本語は歌のようだと言いました。それは日本語の発音に高低があるからでしょう。歌のように聞こえるという日本語を、少しだけ誇りに感じた授業でした(A・Sさん)。

日本語能力試験1級合格者の方々が集まったところであったため、みんな日本語が素晴らしかったです。「待遇表現技術」の授業では日本人と学習者がペアでロールプレイをしました。やってみると難しく、私では相手として不足だなと思いました。ペアの方のほうが上手だったので日本語をもっと勉強しなくてはいけないと思いました。注意

する点も高度なもので、「間の取り方」「きちんとまとめてわかりやすく話す」など、日本人でも難しい点を挙げていたことに驚きました(T・Mさん)。

大真大学校の学生との韓国文化探訪リサーチ

徳寿宮と南山韓屋村に行ってきました。徳寿宮の建物の軒下から見上げたとき、軒先の瓦が丸くなっていることに気がつきました。「韓国では円の考え方が大事。韓服も袖とか形が丸いでしょ？」と一緒にリサーチしていた学生さんに教えてもらい、韓国文化の特徴について知ることができ、とても嬉しく思いました。南山韓屋村で婚礼衣装の韓服を着てみたり、皇族の衣装などを見たりして、特別な韓服の色の鮮やかさに驚きました。学生さんたちともとても仲良くなれて、充実した一日でした(T・Mさん)。



若者に人気の食べ物についてリサーチしました。インターネットの写真で見たものは古かったようで、変化しているものが多くありました。韓国の流行の波はとても速いように感じました。学生さんのお話を聞いたり、街中を歩いたりしてみて、韓国の若者はよく食べ歩きをしているなど気がきました。服屋や化粧品店でも片手に何か食べ物を持って見ている若者が多かったです。日本でもそのような若者もいますが、韓国の方が多いと思います。日本では大人(年配の方)は食べ歩きをあまり良く思わない人が多いです。このような点でも、韓国と日本の文化の違いが表れていると感じました(S・Sさん)。

自由行動

自由行動で国立中央博物館に行きました。初めて自分たちだけで電車に乗るのは不安でしたが、知らない土地で冒険してみようと思いました。国立中央博物館は常設展を無料で見られるのが驚きでした。景福宮や徳寿宮、ロッテワールド民俗博物館で見たようなもの以外にも墓から出土したものや日本人のコレクションなどの展示がありました。日本人のコレクションでは日韓の交流が感じられました(S・Mさん)。



自由行動では前日に仲良くなった韓国の学生たちに明洞やソウルの中心地につれて行ってもらいました。韓国人学生のお勧めの化粧品を買ったり、歩き疲れたらお店に入ってパピンス(かき氷)をみんなで食べたりした。国は違っても女子大生の好きなことや興味のあることは同じだと思いました。韓国料理はおいしくて一週間ずっと満腹状態だったので、帰国してから恐る恐る体重を量ってみたら1キロも痩せていました。カプサイシンの力？(H・Mさん)。